

# 刀 劍 界

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

VOL.1

2011.9.15  
発行人 深海信彦  
発行所 全国刀剣商業協同組合(全刀商)  
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10  
新宿スカイプラザ1302  
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089  
http://www.zentosho.com

編集委員 朝倉大平 史将隆 飯川島田 慶久 久恒孝輝  
伊波賢一 大齋新 忠隆洋 川嶋高橋 藤清水 義暁  
齋藤野 民弘之 網取浩一 服部本 玉井部 澤山  
土藤岡 賀吉也 松賀 亮典 持田 義宏 山 均

## 東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます

三月十一日、宮城県沖を震源にマグニチュード9の大地震が東日本を襲った。それに伴う巨大な津波は青森から千葉までの六県沿岸部をことごとく破壊

し、八月現在で二万五千人以上の死者、五千人以上の行方不明者、九万人以上の避難所生活者を出す戦後最悪の災害となった。また津波は東京電力福島第一

原発を破壊し、その放射能汚染により近隣の住民、農業・畜産業関係者などがいまだに三重三重の苦しみに耐えていることは周知の通りである。

当組合員にも被災された方々がおり、組合では早い段階で松田通夫・村上武・吉田道夫・折笠日米和の各氏に十万円のお見舞い金を送った。なお、折笠氏からはまだ連絡がないだけに、相当な混乱が想像できる。

原発を破壊し、その放射能汚染により近隣の住民、農業・畜産業関係者などがいまだに三重三重の苦しみに耐えていることは周知の通りである。

当組合員にも被災された方々がおり、組合では早い段階で松田通夫・村上武・吉田道夫・折笠日米和の各氏に十万円のお見舞い金を送った。なお、折笠氏からはまだ連絡がないだけに、相当な混乱が想像できる。

## 『読売新聞』平成23年8月27日掲載記事

### 全国刀剣商業協同組合恒例の「大刀剣市」開催で震災復興支援

全国刀剣商業協同組合(理事長・深海信彦)は、7月8日に読売光と愛の事業団を訪れ東日本大震災復興義援金150万円を手渡した(写真)。



同組合では来る10月28・29・30日の3日間、全国各地より75店舗の刀剣商が一堂に会し、東京美術倶楽部で毎年恒例の刀剣・刀装具・甲冑武具の大展示即売会「大刀剣市」を開催する。この際も広く義援金を募り震災復興に一役買う計画を立てている。

お問い合わせ/全国刀剣商業協同組合  
☎03-3205-0601 http://www.zentosho.com/

### 多くの義援金が寄せられる

震災の発生から間もなく、当組合としてどうすべきかを理事会において協議し、まずは組合員から義援金を募ることを決めた。義援金を寄せられた方々は次の通り(敬称略、五十音順)。

- 青木成高 青山偉和雄 赤荻 朝倉万幸 朝倉忠史 芦澤 一幸 阿部光晴 荒木幸一 有山智和子 安東孝恭 飯田隆久 飯田慶雄 飯田慶久 飯田博資 飯塚賢路 飯村興保 池田広司 石川隆男 石塚孝夫 伊藤勉 糸永日左志 伊波賢一 伊波徳

### 全国刀剣商業協同組合

- 男 今津敦生 一口敦 王野健 一 大沢都志夫 大塚康徳 大西康一 大西孝男 大西敏之 大西博 大西芳生 大林幹夫 大林本直 大平岳子 岡田市郎 岡田茂廣 奥谷憲司 長田尚貴 小澤正晴 小田島順子 小美濃 清明 笠原泰明 勝山智充 加藤木好雄 金丸十三 錦木國昭 川島貴敏 菊一純平 北川秀一 城所稔 木村義治 草分一雄 熊倉勇 熊崎昭吉 黒川精吉 黒川宏明 黒田美代子 小池行雄 郡泰二 後藤一乘 小島昇 米野純夫 近藤昌敏 齋藤大助 齋藤隆久 齋藤雅稔 齋藤隆泰 齋藤恒 榊勝弘 坂田哲之 坂本秀美 佐々木光男 佐々木康隆 笹原俊和 佐藤均 猿田慎男 嶋村喜一 柴田光隆 柴田和男 柴田和満 島田恒 嶋田仲夫 清水敏行 清水儀孝 生野正 白井良一 進藤永子 神藤正道 新堀孝道 新堀賀将 菅原静夫 菅谷信 杉浦昭宏 杉江雄治 杉田侑司 須藤教成 鷺見憲司 瀬下明 瀬戸泰二 相馬繁隆 高島吉童 高橋歳夫



読売光と愛の事業団尾上理事(右)に義援金を寄託する綱取理事(中)と齋藤理事

## 全国刀剣商業組合 義援金150万円を寄託

全国刀剣商業協同組合(東京都新宿区)の深海信彦理事長と川島貴敏副理事長、伊波賢一常務理事が27日、東京・大手町の産経新聞社を訪れ、東日本大震災の義援金として現金150万円を託した。写真。義援金は産経新聞厚生文化事業団を通じて被災地に寄付される。



## 『産経新聞』平成23年6月28日掲載記事

理事長・副理事長・専務理事・常務理事らで東日本大震災義援金配分案特別委員会を急ぎよ結成、義援金届け先と配分額を次のように決定し、贈った。

産経新聞社へ百五十万円。六月二十七日、深海信彦理事長・川島貴敏副理事長・伊波賢一常務理事が訪問。

読売新聞社・社会福祉法人読売光と愛の事業団へ百五十万円。七月八日、深海信彦理事長・川島副理事長・齋藤恒常務理事・綱取譲一理事が訪問し、尾上達郎事業団理事に寄託。

財団法人日本美術刀剣保存協会へ二百万円。六月二十九日、深海信彦理事長・齋藤常務理事・眞賀吉也理事が訪問し、小野裕協会専務理事に寄託。

なお、残額五万円は組合が預かっている。

被災地は太平洋沿岸部の広範囲にわたり、まだまだボランティアなどの人手が足りない状態が続いているという。美しい海岸や素朴な農漁村の風景、古い町並みなどが完全に復興するのは、遠い先かもしれない。義援金を贈るといことは、人任せや上から目線などではなく、一個人に今何が出来るかに立ち返った一つの結論にほかならない。

また、刀剣類や甲冑類、その他の文化財が被災している例も聞いており、今後それらのケアを視野に入れていくことも考えられる。

被災地への支援はこれで終わるわけではない。来る大刀剣市でのチャリティーオークション、募金箱の設置と続いていく。(綱取譲一)

### 新聞社などに義援金を寄託

組合では募金活動の一方で、

第24回通常総会

平成二十三年五月十七日、第二十四回通常総会が東京美術倶楽部において開催された。

組合員総数一九五人中一六五人の出席(本人出席七九人、委任状八六人)により、総会成立の定足数である過半数が満たされたことが司会の朝倉忠史理事から報告された後、飯田慶久理事長が挨拶を述べた。

次に議長の選出方法を諮ったところ、飯田理事長を推す意見があり、満場一致をもって議長に選出された。飯田議長は総会の開会を宣し、議事に入った。

【第一号議案】平成二十二年事業報告承認の件

土肥豊久副理事長より平成二十二年事業の報告があり、議長がこれを諮ったところ、異議なく承認された。

【同】平成二十二年会計報告承認の件および監査報告の件

伊波賢二常務理事より平成二十二年会計の報告があり、その後、赤荻監事より決算報告書が適正かつ正確であった旨の監査報告がなされた。議長がこれを諮ったところ、満場一致で承認された。

【第二号議案】平成二十三年事業計画案決定の件

土肥副理事長が平成二十三年事業計画案を説明し、議長がこれを諮ったところ、満場一致で承認された。

【第三号議案】平成二十三年収支予算案決定の件

伊波副理事長が平成二十三年収支予算案を説明し、議長が

新理事長・役員を選任

これを諮ったところ、満場一致で承認された。

【第四号議案】役員報酬の件

清水儀孝専務理事が役員報酬について原案を説明し、議長がこれを諮ったところ、異議なく承認された。

【第五号議案】経費の賦課および徴収に関する件

清水専務理事が経費の賦課および徴収について原案を説明し、議長がこれを諮ったところ、異議なく承認された。

【第六号議案】平成二十三年借入金残高の最高限度に関する件

清水専務理事が平成二十三年借入金残高の最高限度について

て原案を説明し、議長がこれを諮ったところ、異議なく承認された。

【第七号議案】一組合員に対する貸付け、または一組合員の為にする債務保証残高の最高限度に関する件

清水専務理事が一組合員に対する貸付け、または一組合員の為にする債務保証残高の最高限度について原案を説明し、議長がこれを諮ったところ、異議なく承認された。

【第八号議案】役員改選の件

役員選出に当たっては、定款第五章第二十五条および三十一条で選挙による規定されているが、進行の都合上、第九号議

案審議後に行う旨、議長から説明があった。

なお、第八号議案の審議については、飯田議長から清水専務理事に議長を交代してほしいとの申し出があり、これを諮ったところ特に異議なく、清水専務理事が議長に就いた。

事前に案内の通り、期日前投票(不在者投票)ならびに選挙委託状は、理事会で選任された選挙管理人・立会人の下、当会場において開封された。期日前投票二八、委任状三九、無効一であった。

出席者による無記名投票と合わせた結果は、朝倉万幸選挙管理委員長から報告され、議長がこれを諮ったところ異議なく、当選人が決定し、当選人は全員その就任を受諾した。

続いて議長は、新理事長選出を理事の無記名投票による選挙で行う旨議場に説明し、直ちに別室に移り第一回理事会を開催した。そこで深海信彦理事が新理事長に選任され、議場の組合員に発表された。

【第九号議案】その他

特に審議事項の提案はなく、所定の議事は終了した。(嶋田仲夫)



通常総会(上)と役員選出の投票風景

平成23年度役員

- 彦男久敏 孝一 恒 高史久 稔 夫道夫 輝一 治均 也夫 稔 宏
信慎 豊貴 儀賢 成 忠慶 伸 孝歳 義讓 暁 吉唯 具
海田 肥島 水波 藤木 倉田 所田 堀橋 井取 部田 賀井 荻田
深猿 土川 清伊 齋青 朝飯 城嶋 新高 玉綱 服山 冥吉 赤持
理事長 副理事長 副理事長 専務理事 常務理事 理事 理事 理事 理事 理事 理事 理事 理事 理事 理事 監事

昭和六十二年五月の全国刀剣商業協同組合の設立後間もなく、季刊発行を目標に掲げて『全刀商』誌が創刊され、次いで平成四年二月より、遅れがちながらも誌を補完する目的でタブロイド版の『組合だより』が発行されるに至りました。

いづれも定款に定める情報提供事業の一環であり、総務委員会が中心となって広く編集委員を募り、組合員に役立つ情報や組合活動の現状等を記事に盛り込み、細々と活動を続けてまいりました。私は両誌紙の創刊にかかわり、平成十一年に四期八年間の専務理事職を辞するまで

への参加要請には物心両面での限りがあり、奉仕活動の限界に直面せざるを得ないのが現状でもあります。

それなのになぜ今、編集委員に指名された組合員は困難に立ち向かおうとしているのでしょうか。今なお健在な創刊当時の編集委員に加え、新たに組合員の中から若い人材を得て、動き始めようとしているのは何故でしょうか。

今回さらさら、編集の専門家でもある賛助会員の壬子民夫氏が、不慣れた編集委員の要となつて編集を進めてくれることになり、心強い限りです。

希望を持って組合創立に参加した者、さらなる向上を目指して組合に新規加入した者、いずれの人たちも組合の現状を見るにつけ、組合とは何かと自身に

問い直した結果ではなからうかと考えられます。組合が何かをしてくれるのではなく、自分たちの手で生活上、地位向上に利用できる組合にしてこそ、組合に加入している意味があることに気付いたのだとも言い得ましよう。

組合は全員が平等であるべきです。交換会や大刀剣市に参加できない組合員に対しても、経営に役立つ情報や業界ニュースを平等に伝達する役目を担い、組合員の意識の向上を土台に、商売の発展にも一役買うことのできる紙面を心掛けて船出いたします。

意義深い『組合だより』復刊

理事長 深海 信彦



若い編集委員たちとともに、これに携わってきました。その後、平成十二年から今日までの十一年間に『組合だより』一回、『全刀商』四回の発行を見ました。その後の組合活動や組合員の増加を考えれば、もとより情報発信の量としては少なく、政府認可の組合としては諸事業の充実とともに機関紙の定期刊行は不可欠なものとして望まれてきました。

しかし、必ずしも恵まれた経営環境にあるとは言えない業界の昨今、さらなる経営努力を迫られている編集委員に取材や原稿書き、それに加えて編集会議

何の労いも報いもなく、暑さにもげずに原稿を持ち寄った編集委員の面々に、なにとぞ温かいご理解をお願いいたします。同時に、このような意義深い活動に、一人でも多くの組合員が同志として参加してくれることを願うばかりです。

(3)

平成23年9月15日発行(隔月刊)

# 刀 剣 界

第1号

## がんばろう! 日本

### 大刀剣市 2011

全国各地より75店舗の刀剣商が一堂に会して開催する  
恒例の刀剣・刀装具・甲冑武具大展示即売会 (3F・4F)

〈同時開催〉「江とその時代を生きた名工達」(3F 重文室)  
東日本大震災復興支援チャリティーオークション 29日午後開催

「現代刀匠による銘切りの実演」(4F)

恒例企画 「我が家のお宝鑑定」(無料)(4F)  
毎日午後から随時開催/刀剣・刀装具・武器甲冑無料評価鑑定。買入れ相談承ります。

会期：平成23年10月28日(金) 10:00~18:00  
29日(土) 10:00~18:00  
30日(日) 10:00~17:00

主催：全国刀剣商業協同組合

後援：産経新聞社 / フジサンケイ ビジネスアイ

〈会場〉東京美術倶楽部 (お問い合わせ先) 全国刀剣商業協会組合  
東京都港区新橋6-19-15 東京都新宿区大久保2-18-10 新宿スカイプラザ1302  
電話 03-5401-1339 (直通) 電話 03-3205-0601

○三田線「御成門駅」A4出口より徒歩2分  
○浅草線・大江戸線「大門駅」A4出口より徒歩5分  
○JR「新橋駅」鳥森口より徒歩10分  
○銀座線・浅草線「新橋駅」より徒歩10分  
○JR「浜松町駅」北口より徒歩10分

(株)東京美術倶楽部  
〒105-0004 東京都港区新橋6-19-15  
TEL 03-3432-0191  
FAX 03-3431-7606  
URL http://www.toobi.co.jp

Tokyo Bijutsu Club  
6-19-15, Shimbashi, Minato-ku Tokyo  
TEL 03-3432-0191  
FAX 03-3431-7606  
URL http://www.toobi.co.jp

### 「大刀剣市2011」開催迫る

10月28~30日、東京美術倶楽部で

わが組合最大のイベントである「大刀剣市」が、早いもので今年で二四回目を迎えます。来る十月二十八日(金)~三十日(日)、恒例の地、新橋の東京美術倶楽部で開催します。

全国各地の組合員の方々のご協力により、今年は七十五店舗の出店があります。産経新聞社・フジサンケイビジネスアイ両社には初回から変わらぬ後援をいただいております。また、全日本刀匠会には引き続き協賛をお願いしました。

「江とその時代を生きた名工達」と題して展覧会を開催します。同じフロアの会場では、毎年人気の「わが家のお宝鑑定」、現代刀匠による銘切り実演も行います。

今年には特に「東日本大震災復興支援チャリティーオークション」を開催します。平成十二年に「三宅島噴火義援金チャリティーオークション」を行い、二百万円を東京都知事にお届けした前例がありますが、今回東日本大震災で被災された方々に少しでもお役に立てないかと

考えて企画しました。組合員や出品者の善意のお品をオークションで販売し、全額を被災地への義援金とさせていただきます。中日の二十九日(土)午後のオークションに先立ち、初日から三・四階に設置する組合コーナーで、出品商品が見えます。

各店舗選りすぐりの刀剣・刀装具・甲冑などを収録するカタログは、図録編集委員会のひとかたならぬ尽力で順調に進んでおり、十月早々にはお届けが可能です。

昨年の大刀剣市 (東京美術倶楽部)

大刀剣市の成功に向けて、組合員の皆さまの絶大なご協力を心からお願いします。詳細については、実行委員会にお尋ねください。(清水儀孝)

### 大刀剣市会場見取り図 (東京美術倶楽部)

#### 4F

※表示の番号はブースNo.です

#### 3F

## 新組合員紹介

### <組合員>

- 石塚 孝夫 研誠堂  
東京都文京区 昭和20年生
- 高谷 光宏 古美術 遊美  
東京都台東区 昭和33年生
- 新堀 賀将 泰啓堂賀将  
東京都文京区 昭和61年生
- 中村 榮次  
埼玉県深谷市 昭和15年生

### <賛助会員>

- 土子 民夫 刀剣ジャーナリスト  
東京都江東区 昭和21年生

## 品 触 れ

テレビニュースなどでも報道されましたが、去る8月7日午前10時30分ごろ、群馬県桐生市で下記の刀剣が強盗被害に遭いました。お心当たりの方は組合事務所、または所有者の稀銭堂美術刀剣店にご連絡願います。

- 刀 無銘 刃長2尺1寸5厘(63.5cm)  
 地鉄 板目肌流れて地沸つく  
 刃文 直刃に互の目、足入り、砂流し交る  
 彫刻 表裏に棒樋掻き流し  
 鍔 呑み込み深い金着せ一重白鞘の柄のみの状態で持ち去られる。  
 鑑定書 特別保存刀剣(無銘當麻友行)平成20年7月9日発行  
 登録証 持ち去られていません。

### <連絡先>

稀銭堂美術刀剣店 (代表) 齋木國昭  
 〒376-0046  
 群馬県桐生市宮前町1-6-44  
 TEL 0277(22)0449

お父さんは、皆さまご存じの松本富夫様です。野田市で(株)美術・千葉・東京営業部のほか、オリックスインドネシアに駐在、また社長室や戦略企画チームの中枢で活躍するなど、貴重なキャリアを積んでこられました。



松本さん(右)と筆者

刀剣商業界も近年、若手の二代目・三代目が頭角を現しつつあり、誠にうれしい限りです。(藤岡弘之)



大刀剣市カタログの編集会議にて

## リレー訪問①

### 国際ビジネスマンから転じた異色の人

連載第一回は、新しい仲間である松本義行さんを紹介しします。

松本さんは千葉県野田市出身で、今年四十七歳になります。昨年までは金融・不動産・サービスの大手オリックスに勤務されていました。配属は仙台・千葉・東京営業部のほか、オリックスインドネシアに駐在、また社長室や戦略企画チームの中枢で活躍するなど、貴重なキャリアを積んでこられました。

術刀剣松本を営むかたわら、月二回の野田会を運営されています。

### 松本義行さん

す。この会に出席したことのある方も多いことでしょう。

義行さんは今、お父さんと一緒に各地の交換会に出席しつつ、刀剣・刀装具の猛勉強に励んでいる最中です。

## 職方紹介 第1回 伝統技術の評価基準

現在、日本国内で確認されている刀職者は、五〇〇人前後で、刀を研磨する研師一八〇名、白鞘や拵地を作る鞘師五〇名、鉦や切羽などを作る白銀師二五名、柄に柄糸を巻く柄巻師が六名、鞘などに漆を塗る塗師七名、刀を作る刀匠が二三〇名と言われています。

現在の刀剣研磨の技術は、刀匠と並んで重要無形文化財保持者(人間国宝)を何人も送り出すほどの高い技術を持った刀職者の一つであり、江戸時代以前と比べても、日本刀を美術品として鑑賞しやすいように、最も技術を進化させた分野であります。それは、人間国宝になられた本阿弥日洲先生・小野光敬先生・藤代松雄先生・永山光幹先生およびその門下の方々などの努力と、研磨技術を高めるために数十年行ってきた日刀保の研磨コンクールなどが寄与するところが大変大きかったと思います。

現代社会では、後継者や雇用の問題などもあって、コンクールのような評価基準がなければ、これからの刀職者の技術保持は大変難しいことになり、ひいては刀剣商の行く末も暗いものとなってしまいます。刀職者と刀剣商が、共に良きパートナーとして、これからの日本刀の保存に対する共通の認識を持ち、刀剣界を盛り上げていけるようになることを念じて、次号から刀職者の方を紹介させていただきます。(川島貴敏)

## 組合こよみ

(平成23年4~8月)

- 4月17日 東京美術倶楽部にて組合交換会開催。参加者49名、出来高29,816,000円。
- 17日 理事会開催。東日本大震災被災組合員への義援金の件、新組合員承認の件。
- 18日 金融担当理事、商工中金へ交換会の立替金借入れに出向く。
- 5月17日 第24回通常総会開催。
- 17日 理事会開催。新理事長選出。
- 17日 組合交換会開催。参加者87名、出来高25,955,000円。
- 18日 金融担当理事、商工中金へ。
- 6月14日 理事長と前理事長、日本美術刀剣保存協会を表敬訪問し協会執行部と面談。
- 16日 東京美術倶楽部にて理事会開催。新執行部承認の件。
- 17日 組合交換会開催。参加者66名、出来高36,983,000円。
- 17日 理事会開催。各部会・委員会組織編成案ならびに義援金配分案を審議。
- 17日 東京貸物社と担当委員が大刀剣市の設営につき打ち合わせ。
- 20日 交換会会計ソフトを東刀会へ貸し出す。
- 21日 金融担当理事2名、商工中金へ。
- 23日 義援金配分案特別審議委員会を開催。
- 27日 産経新聞社へ理事長・副理事長・常務理事の3名が訪問。東日本大震災被災者救援のための義援金を寄託。
- 29日 日本美術刀剣保存協会へ理事長・常務理事・理事の3名が訪問。東日本大震災の義援金を寄託。
- 7月1日 「組合員名簿」平成23年版を作成配布。
- 7日 組合機関紙・大刀剣市カタログ編集特別委員会。
- 8日 読売新聞社(読売光と愛の事業団)を理事長・副理事長・常務理事・理事の4名が訪問。東日本大震災義援金を寄託。
- 10日 交換会会計ソフトを平成会へ貸し出す。
- 17日 組合交換会開催。参加者55名。出来高30,136,000円。
- 18日 金融担当理事2名、商工中金へ。
- 19日 大刀剣市カタログ掲載品の写真撮影始まる。
- 8月3日 3カ所でのカタログ撮影終了(藤代商店・大石カメラ・組合事務所)。
- 4日 組合事務所にて機関紙編集委員会・大刀剣市実行委員会
- 9日 同美印刷にて大刀剣市カタログ編集委員会。
- 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会開催。参加者63名、出来高35,968,000円
- 23日 組合理事会開催。書籍『名物刀剣』(佐野美術館)一括購入の件
- 23日 東京美術倶楽部にて機関紙編集委員会。
- 25日 理事長・専務理事・常務理事2名が警察庁を訪問。
- 30日 同美印刷にて大刀剣市カタログ編集委員会。

視点・論点

鞭声粛々 BENSEISYUKUSYUKU

大震災に思う

急に大きな地震に襲われる。それなりの被害はあろうが、しかし、今回はその後の津波こそが問題だったのだ。

千年に一度とも言われる大津波。小生はその瞬間をテレビで見たいが、それでも恐ろしいものだった。

例えば、趣味だった美術品。それらの被害も甚大と聞く。なかんずく刀・刀装具・甲冑などの場合、海水に浸かって、そのまま放置されていたり、白鞘や櫃が壊れていたり、さまざまなケースが想定される。こうした美術品の修理・復元も、我々刀剣商の努めの一環と考えるが、いかがであろうか。

(も)

日本刀を無形文化遺産に

ユネスコ世界遺産は今年、平泉が文化遺産として、また小笠原諸島が自然遺産として登録されるなど、あらためて注目された。一方、同じユネスコの無形文化遺産は後発とあって、まだ十分に認知されていない。それでも「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されたわが国のものは、能楽・歌舞伎・結城紬など、既に十八件に上っている。

その違いはというと、前者が主に視認できるハードウェアを対象とするのに対し、後者が芸能や工芸のように概して伝統文化のカタゴリーに入るソフトウェアである点である。

無形文化遺産の考え方の基本に、わが国の「重要無形文化財」およびその保持者の指定・認定制度があると聞くと、直に

「日本刀は無形文化遺産にふさわしい要件を備えている」と思う。その価値が世界に広く認められつつある今、日本刀をぜひ無形文化遺産に！

(丁)

イベント・レポート

月山貞利展

六月一日から七日までの一週間、東京日本橋高島屋美術画廊で、「月山貞利展」が開催されました。

月山刀匠と高島屋との縁は深く、先代貞一刀匠(人間国宝)とのいわゆる親子展から実に二十一年が経ち、その三年後の貞利展から六度目の、さらに今回は今まで一番広い会場での個展です。

ご存じのように東日本大震災後の百貨店では、節電による営業時間短縮、照明削減、エスカレーター制限が実施され、来場者数が心配されましたが、五月

日本橋高島屋で六度目の個展

には平常営業に戻り、天候にも恵まれ、多くの方のご来場により、関係者を安心させる結果となりました。

会場では、綾杉肌の月山伝や相州伝の各種刀剣、それに施す梅龍や素剣などの刀身彫り、加えて小品など、多彩な特技を多数披露していました。さらに、嫡子貞伸刀匠の「お守り刀展」受賞作品や、弟子の田中貞豊刀匠、田公貞充刀匠のお守り刀も展示され、連綿と続く月山一門を彩りました。

また今回は四日(土)午後二時より、月山貞利刀匠によるギャ



月山貞利展の会場風景

宮入法廣作刀展

「刀匠宮入法廣作刀展2011」が七月二十四日〜八月二十八日、刀匠の鍛錬場にはど近い東御市・梅野記念絵画館において開催された。

この作刀展は今年三月、宮入刀匠が長野県無形文化財に認定されたことを記念し、東御市が主催したものである。

同刀匠の作刀展は平成十六年に続き二回目ということで、十七年以降に製作された中から特に選りすぐり、刀剣類十一一点、刀子六点が展示された。

展示、配置等に関しては、刀匠自身が創意工夫したといい、黒塗りのケースに一点一点丁寧に飾られていた。

まず会場入り口には華やか

な丁子乱れを焼いた四尺の太刀が展示され、中央には平成二十二年に刀剣界の最高峰「正宗賞」を受賞した備前景光写しの短刀、その真向かいに備前伝から相州伝への飛躍を思わせる二筋樋の入った志津写しの会心作が展示されていた。

現在、備前伝が大流行の中にあって、相州伝の志津写しの挑戦は、刀匠の大いなる勇氣と希望を感じさせる一振でもあった。

「宮入法廣(花押) 平成二十三年三月二十八日」と銘した最新作の太刀があった。この年紀は刀匠が長野県無形文化財に認定されたメモリアル記念日である。作風は隅谷丁子を見事に再現しており、恩師隅谷正峯

長野県無形文化財認定を記念し開催

先生に感謝を込めて製作したことが想像される。

宮入刀匠は、人一倍器用な天性を持っている。そのことは今回、宮内庁正倉院事務局のご配慮により特別出品された正倉院宝物復元模造刀子一対からもうかがい知ることが出来る。

ほかに聖武天皇の橘夫人が東大寺盧舎那仏に献納したといわれる正倉院宝物の刀子復元品を含め、五本の刀子が展示されている。これらはそれぞれ製作期間数カ月を要したという。まさに芸術品ぞういである。

今回の作刀展は、展示数こそ多くはないが、どの作品も非常に

(伊波賢一)

町のショッピングセンター「クス内ギャラリー」森で開催された。これは、三上さんが当地に日本刀鍛錬道場を開設して三十年になるのを記念したものだ。

会場にはその時々の代表作から近作まで約五十点が展示され、来場者を楽しませていた。

三上さんは人間国宝の月山貞一氏に師事、昭和五十五年に独立した。現在、全日本刀匠副会長、日刀保たたら村下代行を務める。



ギャラリー森の作品展

三上貞直刀匠が個展

三上貞直刀匠の作品展が七月十六日〜二十四日、広島県北広島

「三上貞直刀匠が個展」開く

日本刀の伝統技法を生かして

刀装は鍛冶・金工・漆芸・木工・染織などの伝統技術が結果集しているが、同展はその刀装に着目し、「飾る」をキーワードに、伝統工芸技術によって制作

「三上貞直刀匠の作品展」が七月十六日〜二十四日、広島県北広島市にある「三上貞直刀匠が個展」が開く。日本刀の伝統技法を生かして、刀装は鍛冶・金工・漆芸・木工・染織などの伝統技術が結果集しているが、同展はその刀装に着目し、「飾る」をキーワードに、伝統工芸技術によって制作された。

鍛錬道場開設三〇周年を記念して

宮入法廣作刀展に見入る入場者

「三上貞直刀匠が個展」開く

日本刀の伝統技法を生かして

刀装は鍛冶・金工・漆芸・木工・染織などの伝統技術が結果集しているが、同展はその刀装に着目し、「飾る」をキーワードに、伝統工芸技術によって制作された。

「三上貞直刀匠が個展」開く

日本刀の伝統技法を生かして

刀装は鍛冶・金工・漆芸・木工・染織などの伝統技術が結果集しているが、同展はその刀装に着目し、「飾る」をキーワードに、伝統工芸技術によって制作された。

ブック・レビュー BOOK REVIEW

『本阿弥行状記』

日暮聖・加藤良輔・山口恭子訳注 本体三〇〇〇円 平凡社

『本阿弥行状記』は写本をもつて伝わり、原本の所在は明らかでない。

上・中・下巻の三部、三八〇段から構成。本書は上巻に当たる六四段までを収録している。これは、中間の冒頭に以下の一文があるためである。

「此附録は光悦翁、光甫翁両所の書残されし反古の中より取り出したり、夫ゆゑに混雑校合するに能はず。見る人不審を残すべからず。竝に予が聞し所をもしるす。」

子の光瑛、孫の空中齋光甫の編纂により、光悦の聞き書きを主体にまとめられた、母妙秀の逸話を含む本阿彌家の記録である。各種の「古伝書」とは異なり、詳細な刀剣の鑑定法の記述は、全くと言ってよいほどにない。しかしながら、本阿彌家が折紙を発行する際のエピソードや、名物の刀剣に関する数多くの記述は、われわれ刀界に身を置く者にとり、大変に興味深い。時代は寛永年間である。家康から拝領した落北鷹ヶ峰に住む本阿彌家の人々の日常生活にも内容は及び、時には鋭い考察を交える。複雑な現代社会に生きるわれわれが、共感する部

分も少なくない。

読後に得も言われぬ「爽やかさ」を覚えるのは、登場する本阿彌家の人々の「心」に、守るべき原理原則があったためと思われる。それが行動の規範となり、いささかも揺らぐことのない筋目として現れている。人々に見る一貫した姿勢―これが本書の最大の魅力と思う。

集約を第六〇段に見ることができよう。

「本阿彌が家に智慧あるものはあらざれども、先祖に奇特なるものありし故にや、冥加に叶ひ、天命を恐れ、善悪の報ひ明らかなる事を恐る、故に、非道を行わず。随分物事に僻事をなさざるなり。殊にわが家の一大事なれば、目利の吟味せんさくの強き事、こゝろに曇りある人に推量の外なるべし。」

『美鋼変幻―たたら製鉄と日本人』

黒滝哲哉著 本体一八〇〇円 日刊工業新聞社

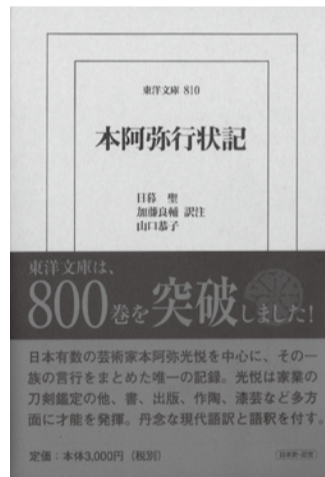
生き続ける和鉄の技と心

本書は、たたら製鉄に十五年間携わってきた著者が、その経験に基づき、たたらの変遷やたらの存続に尽力した人々について、明治以降の日本が進めた近代化の考証というテーマでまとめたものである。

たたらは近代製鉄の溶鉱炉に当たる釜を、操業のたびに作っては壊し、壊しては作るという日本古来伝統的な工程であり、洋鋼に比べるとときわめて低温で処理される工法である。それが良質の玉鋼(和鋼)を生み、折り返し鍛錬による地鉄や千変万化の焼



刃の働きを作り出す。一方、洋鋼は玉鋼と違い、粘り強さに欠け、折り返して鍛錬することができないので、鉄の優美な動きとともに「折れず曲がらず」という優れた日本刀は期待できない。しかし、洋式製鉄は固定的かつ恒久的施設として溶鉱炉を備えている。その都度、溶鉱炉を自然の恵みと人間の力のみで鉄を造るたたらが、近代とはものづくりとは、人間とは、そして自然とは、環境とは……といった基本問題を提起している。刀剣商として、ぜひ理解しておきたい一冊である。(松本義行)



の著者として知られる中野孝次の『本阿弥行状記』(河出書房新社、平成四年)がある。併せ読むと、読書の幅が一段と膨らみ、本阿彌光悦の人となり、より明瞭になると思う。

コンパクトな装丁の本書(東洋文庫)は、携帯するにも便利である。(齋藤隆久)

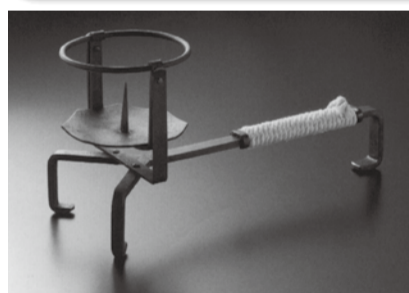
された作品を公募。さらに、オンライン形式の展示会を開催することで技術を継承することもに、伝統文化の魅力と可能性を広く紹介したものである。県内の刀匠十人が実行委員会をつくって立ち上げた。

最高賞は、ドイツ出身の広島市立天大学院生フォルタニエ・クラウディアさんの漆芸作品「流れ星」。手の平に収まる卵形で、黒い表面の突起に触れると光がともるユニークな仕掛けが施されている。

日本刀関係の作家では、満足浩次さんの「燭台」が広島県教育委員会賞、片山重恒さんの小柄が優秀賞・全日本刀匠会賞、久保善博さんのペーパーナイフが奨励賞をそれぞれ受賞した。

展示会には受賞作品をはじめ約七十点が並び、特に女性の見学者から高い評価を得ていた。なお、本展は文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の対象事業として実施されたものである。

過去にも、廃刀令に遭遇した金工などがその技術を生かし、他の分野で見るとべき成果を残した例があるが、今回の試みは平成のジャパン・ブランドへの可能性を示すものかもしれない。



広島県教育委員会賞を受賞した満足浩次作「燭台」

「新作名刀展」開く

財団法人日本美術刀剣保存協会主催の「新作名刀展」は六月七日〜七月十日東京代々木の刀剣博物館にて、七月十五日〜八月三日山形県鶴岡市の致道博物館にて開催された。

出品数は、作刀の部二十六点(無鑑査出品を除く。以下同)、刀身彫りの部三点、彫金の部二十点であった。入賞者は次の通り。

- 〈太刀刀・脇指・薙刀・槍の部〉
▽日本美術刀剣保存協会会長賞 松葉一路

「第二回新作日本刀・刀職技術展覧会」開く

公益財団法人日本刀文化振興協会・公益財団法人大倉文化財団・大倉集古館主催「伝承の技と創造の美―第二回新作日本刀・刀職技術展覧会」は六月十二日〜七月二十四日、東京虎ノ門の大倉集古館で開催された。

出品数は作刀・刀身彫刻部門三十点(審査員・招待出品を除く。以下同)、研磨部門三十点、刀装部門四十六点であった。入賞者は次の通り。

- 〈作刀〉
▽経済産業大臣賞 川崎仁史
▽日本刀文化振興協会会長賞 明珍祐介
▽金賞 松葉一路 高見一良
▽銀賞 月山一郎 吉光格(新人賞) 古川信夫 久保善博 尾川光敏
▽佳作 鈴木健和(新人賞) 満足浩次 木村光宏 廣木順一 杉田昭二

- 〈刀身彫刻〉
▽佳作 片山恒

- ▽草山賞 杉田昭二
▽優秀賞 曾根寛 北川哲士
▽努力賞 森國利文 小宮治氣 高羽弘 渡邊繁美 高見一良

- 〈小脇指・短刀・剣の部〉
▽優秀賞 松葉一路 加藤政也
▽努力賞 杉田昭二 松川隆

- 〈刀身彫りの部〉
▽努力賞 柏木幸治 片山恒

- 〈彫金の部〉
▽優秀賞 宇津木光良 柳川清二 上野専一郎 川島義之
▽努力賞 山下秀文 福興裕毅 大川千光

- 〈研磨〉
▽日本刀文化振興協会会長賞 小野敬博
▽金賞 森井鐵太郎 本阿彌毅 玉置城二
▽銀賞 阿部一紀 水田吉政 相良雄一 小川和比古 藤川二朗 関山和進

- 〈刀装具〉
▽佳作 井上聡 小宮光敏
▽銀賞 森雅裕 福興裕毅
▽佳作 長内勝義 川島義之 宮園十朗

- 〈白銀〉
▽日本刀文化振興協会会長賞 宮下武
▽金賞 中田晃司
▽銀賞 平田美

辺境の硝石造り・祭りと火薬 (加藤明)  
豊後佐伯藩の大鉄炮―津田流から伊勢守流  
へ (宇田川武久)

例会費：会員500円 非会員1,000円  
親睦会4,000円 見学会7,000円

### ■三河武士のやかた家康館

〒444-0052 愛知県岡崎市康生町561  
TEL0564(24)2204

### 武門のあかし 甲冑

応仁の乱(1467~1477)以降、室町幕府が弱体化し、各地に新興勢力が乱立し、世の中は長期にわたって混迷しました。

有力氏族は兵農分離と集団武装化を進め、武具・甲冑の需要も増えました。甲冑そのものは武士が戦場にて己の身を守りかつ自己の存在をアピールする晴れ着として重要な役割を果たしましたが、太刀・弓矢・槍・火縄銃・刀など使用する武器や騎馬による弓射戦から鉄砲隊を含んだ集団戦への戦法の変化により、甲冑そのものの形を変化させています。

17世紀初頭、徳川氏による天下統一を経て270余年にわたる平和な世の中が訪れても、実戦に備えた防具としての甲冑から、武家の権威の象徴として甲冑は製作され続け、かたちを変えながらも現代まで続いています。

甲冑は、現代においては優れた美術工芸品ととらえられがちですが、それぞれに先人たちの思いが込められた武門のあかしです。

本展覧会では、本市寄託および所蔵の甲冑関係のコレクションから30点余の優品を選び、これを二期に分けてご覧いただけます。

会 期：前期9月9日(金)~10月12日(水)  
後期10月14日(金)~12月4日(日)  
入館料：大人(中学生以上)350円  
小人(5歳以上)200円

なお、新設した甲冑試着体験室では、無料で甲冑が試着できます。また、写真撮影も可能です。

### 室瀬和美展

重要無形文化財保持者(時絵)で公益財団法人日本刀文化振興協会評議員の室瀬和美さんが、次の2会場で個展を開催する。

#### ■日本橋三越本店6階美術特選画廊

9月21日(水)~27日(火)

#### ■JR大阪三越伊勢丹6階美術画廊

10月19日(水)~25日(火)

今回は特に「華・響・綾」をテーマに、自然の美、音楽との融合、交錯する東西文化といった新たな融和の形に挑戦している。

室瀬さんは昨年、携帯電話ノキアの高級ブランド「ヴァーチュ」に時絵を施した吉祥シリーズを発表し、話題を呼んだ。春夏秋冬をイメージした作品は各2,000万円、4台限定販売されたが、完売した。



授賞の挨拶をする久保さん

「鉄の技術と歴史」フォーラムで、社団法人日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」フォーラムでは七月二十三日、千葉工業大学で平成二十三年度総会を開催し、併せてフォーラム賞・研究奨励賞の授賞を行った。

二賞のうち、鉄の歴史・技術・文化ならびにその関連分野において卓越した業績を上げつつある将来性豊かな研究者に与えられる研究奨励賞が、刀匠の久保善博さんに授与された。

選定理由は、たたら製鉄法について精力的に実験的研究を重ねるなど、刀匠の久保善博さんに授与された。

「刀職者技術研修会」今年で第四回となる刀職者技術研修会(公益財団法人日本刀文化振興協会主催)が長野県坂城町の「鉄の展示館」内、坂城

町中心市街地コミュニティセンター多目的ホールにて八月二十六~二十八日の日程で開催されました。

- 〈鞘塗り〉  
▽銀賞 岸野輝仁  
▽金賞 藤田行雄
- 〈拵下地〉  
▽銀賞 森隆浩  
▽銀賞 藤田行雄

久保刀匠が研究奨励賞を受賞  
「鉄の技術と歴史」フォーラムで  
ね、フォーラム研究発表大会に七年連続で成果を発表し「鉄と鋼」たたら研究会へも積極的に論文を投稿するなど、刀匠の立場からたたら製鉄技術解明に大きく貢献したと認められたため。久保さんは千葉大学大学院に学んだ後、吉原義人刀匠に師事、現在は広島県庄原市で作刀に取り組んでいる。

開く  
町中心市街地コミュニティセンター多目的ホールにて八月二十六~二十八日の日程で開催されました。

受講者は作刀・研磨・白銀・白鞘・柄巻きの五部門計三十三名と多人数で、昨年にも増して初参加の方も多く、それぞれに研修課題を掲げ、猛暑の中にもかかわらず熱心に学びました。開講式には坂城町山村町長、



研修会の会場風景

同産業振興課小奈良課長はじめ講師陣(作刀三名、研磨五名、白鞘二名、柄巻き二名)が列席。山村町長からは激励を込めた挨拶があり、続いて研修に先立ち小野博柳講師より「三日間しかないのに、積極的に講師の方に質問や実技の指導をお願いし、有意義な研修会にしましょう」との講話がありました。

初日は遠方より元伊勢神宮徴古館館長の堀川彌生様・飯田彌宜様の来訪があり、また本阿彌毅氏(研師)・小野敬博氏(研師)・森井鐵太郎氏(研師)・森井敦史氏(鞘師)など中堅・若



開講式に集まった研修生・講師陣

手の職方の方々から支援に訪れたほか、研修の支障にならない範囲で見学も可としたので、展示館への来館者など多くの見学者で賑わいました。

二日目の夜には「坂城びんぐしの里」において奉納鍛錬と新能が催されました。宮入小左衛門行平刀匠による奉納鍛錬に続き、篝火の照らす中、野村萬斎氏による狂言「樋の酒」、松木千俊氏による能「小鍛冶」が荘重に演じられました。

閉講式では、講師の川崎晶平刀匠、佐々木卓史研師、剣持直利鞘師、宮島宏白銀師、遠山康

お知らせとお願い  
■本紙購読について  
「刀剣界」はこれから隔月で発行してまいります。購読料は無料です。組合員以外の方で継続購読を希望される方は、組合までお申し込みをお願いします。なお、お手数ですが、年間送料実費として四八〇円をお送りください。

■お申し込み・お問い合わせ先  
全国刀剣商業協同組合(全刀商) 〒169-0072 東京都新宿区大久保二一八一〇 新宿スカイプラザ三〇二号  
TEL 03(3205)0601 FAX 03(3205)0089

男柄善師からそれぞれ「この研修会で得た技能や課題を自宅に持ち帰り、日々研鑽を積み、さらに新たな課題とともに、また来年も参加してください」などの指導がありました。

また、各部門初参加の方々から感想として、研修での成果やいろいろな方の助言が得られたことに、率直な感謝の気持ちがある。

来年も有意義な研修会になるように確かな課題を準備し、多く受講者の参加を期待します。(阿部一紀・研磨担当・研修講師)

## ■根津美術館

〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1  
TEL03(3400)2536

### 特別展「名物刀剣—宝物の日本刀」

根津美術館・佐野美術館・徳川美術館・富山県水墨美術館が共同開催する特別展「名物刀剣—宝物の日本刀」が、東京・青山の根津美術館で始まった。会期は8月27日(土)～9月25日(日)。

本展では、徳川八代将軍吉宗が本阿弥家に命じて作らせた「享保名物帳」所載品をはじめ、名だたる武士が所持したと伝わる日本刀の名物を中心に名刀を数多く集結。国宝9点、重要文化財21件、重要美術品3件を含む約50件の名品が展示される。

巡回展の最初の開催となる根津美術館では、刀剣の魅力を十分に伝えるため、光の微妙な角度から生じる刃文の動きに注目、当展覧会に向け照明器具を独自に開発し、従来美術品の中でも特に展示が難しいと言われる日本刀の展示に新境地を開いた。

同館では、

- ・国宝 太刀 三条(名物三日月宗近) 東京国立博物館蔵
  - ・重要文化財 太刀 備州長船兼光/延文三年二月日 ふくやま美術館寄託
  - ・国宝 短刀 左/筑州住(号太閤左文字) ふくやま美術館寄託
  - ・重要文化財 刀 金象嵌銘 永禄三年五月十九日義元討捕刻彼所持 織田尾張守信長(名物義元左文字) 建敷神社蔵
- などの作品が独自に展示される。

また、特別講演として「名物刀剣—日本刀が宝物になるまで」(渡辺妙子氏・佐野美術館館長)が9月3日に、「名物と名物刀剣」(佐藤豊三氏・徳川美術館専門参与)が9月17日に開催される(ともにハガキでの事前申し込みが必要)。さらに、原田一敏氏(東京藝術大学教授)によるギャラリートーク(9月2日・16日)など業界を代表する有識者による貴重なプログラムも多数企画されている。



ポスター(左)と展示作品(下) 国宝 太刀 銘 三条(名物三日月宗近) 平安時代 12世紀 東京国立博物館蔵

## 催事情報

〈巡回展会期〉

- 富山県水墨美術館 9月30日～10月16日
- 佐野美術館 10月22日～12月18日
- 徳川美術館 平成24年1月4日～2月5日 (飯田慶雄)

### ■財団法人日本美術刀剣保存協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-25-10  
TEL03(3379)1386  
10月8日(土)・11月12日(土)  
定例鑑賞会 刀剣博物館4階講堂  
7月12日(火)～11月6日(日)  
「古刀新刀名作展—多彩なる金色の世界」  
刀剣博物館

### ■公益財団法人日本刀文化振興協会

〒115-0044 東京都北区赤羽南2-4-7  
鷹匠ハイツ301号  
TEL03(5249)4440  
10月29日(土) 日本刀・甲冑武具鑑賞会  
港区港南1-8-35 コクヨ(株)ショールーム  
11月5日(土) 月山貞利鍛錬道場見学会  
11月23日(土) 特別鑑賞会 佐野美術館

### ■全日本刀匠会

〒125-0031  
東京都葛飾区西水元2-18-11 吉原國家方

### 第6回お守り刀展覧会

〈長野会場〉9月17日(土)～10月30日(日)  
坂城町鉄の展示館  
〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城6313-2  
TEL0268(82)1128

〈長船会場〉11月2日(水)～12月25日(日)  
備前長船刀剣博物館  
〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966  
TEL0869(66)7971

なお、審査結果は次の通り。

〈刀身の部〉

- |                   |      |
|-------------------|------|
| 岡山県知事賞(特賞)        | 吉川三男 |
| 瀬戸内市長賞(特賞)        | 加藤政也 |
| 岡山県教育長賞(特賞)       | 久保善博 |
| 助さかきテクノセンター理事長賞   | 月山一郎 |
| 山陽新聞社賞            | 川崎仁史 |
| 信濃毎日新聞社賞          | 古川信夫 |
| NBS長野放送賞          | 河内一平 |
| 全日本刀匠会会長賞         | 木村光宏 |
| 佳作 松葉一路・廣木順一・松田 要 |      |

〈外装の部〉製作代表者

- |            |      |
|------------|------|
| 長野県知事賞(特賞) | 宮入 恵 |
| 坂城町長賞(特賞)  | 森井敦央 |
| 長野県教育委員会賞  | 三上孝徳 |
| 坂城町商工会長賞   | 安達茂文 |

- テレビせとうち賞 赤松伸咲
- 〈総合の部〉
- ワコースポーツ文化振興財団賞川崎仁史
- 〈特別賞・日立金属賞〉全作品中最優秀作 吉川三男

### ■社団法人日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」フォーラム

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1  
千葉工業大学工学部機械サイエンス学科  
寺島研究室内 FAX047(478)0329

### 講演会「山陰地方の鉄生産技術と文化」

「鉄の技術と歴史」フォーラムでは、日本古来の製鉄法とその製品である和鉄・和鋼の加工法について研究し、学問的に解明することを指針としてさまざまな活動を行っているが、今回は島根県立古代出雲歴史博物館の企画展「たたら製鉄と近代の幕開け」開催を機会に、現地で講演会を同館と共催する。

期日：11月19日(土) 講演会  
20日(日) 企画展見学会  
会場：島根県立古代出雲歴史博物館  
〒669-0701 島根県出雲市大社町杵  
築東99-4 TEL0853(53)8600

主な講演と講師：  
鳥取・奥日野のたたら関係資料の調査について(高橋章司)  
松江藩におけるたたら生産と流通(相良英輔)  
倭国一著『日本刀の科学的研究』をめぐって(土子民夫)  
倭国一博士ドイツ留学中の講義「たたら製鉄法」(天辰正義)  
倭国一著『古来の砂鉄製錬法』所載の製鉄遺跡(角田徳幸)  
都合山鑪・砥波鑪出土鉄関連遺物の金属学的調査(大澤正己)  
「先大津阿川村山砂鉄洗取之図」と白須たたら(渡辺一雄)  
明治中期の伯耆在来製鉄業における技術的課題(加地至)  
参加費：講演会2,000円 懇親会5,000円

### ■日本銃砲史学会

〒362-0066 埼玉県上尾市領家115-24 峯田方 TEL/FAX048(781)9324

### 例会と見学会

第383回例会は下記の研究発表を予定し、見学会は翌日、横須賀市にてヴェルニー記念館・横須賀軍港・三笠公園・防衛大学校などを巡る。

日時：9月17日(土) 12:55～17:00  
会場：早稲田大学各務記念材料技術研究所  
〒162-0051 東京都新宿区西早稲田2-8-26  
TEL03(3203)4141

研究発表演題：  
百人町鉄砲百人組—今と昔(高橋達郎)  
初期江戸幕府の西洋砲(伊藤秀憲)

